



下関市長の部屋

検索

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>



9月27日に市内でトップを切って開催された菊川地区まちづくり協議会設立総会(アブニール)

まちづくりにはより多くの市民の皆さんの参加が必要です。

の最近どこかで耳にする「住民自治によるまちづくり」という言葉。「聞いたことないよ」という皆さんも、全市民的に取り組み始めたこの新たなまちづくりに参加しませんか。

まちづくりの主役は市民の皆さんです。全国的に少子高齢化や人口減少が叫ばれていますが、もちろん下関市も例外ではなく、むしろ他の自治体に比べても急速に進み、各種活動団体も高齢化が進んでいるのが現状です。

下関で育った子どもたちはやがて、巣立っていく日が来ます。子どもたちにとって故郷として誇れる下関になるため、そして下関を子育ての場所だけでなく、大人になっても住み続けていきたい場所として選択されるよう、新たなまちづくりを進めなければなりません。若い方々の力と長年の経験で培われた先輩方の知恵との調和が必要です。

新たなまちづくりに、きめ細やかさ、しなやかさを確保するには女性の参加が欠かせません。高いコミュニケーション能力によるネットワークづくりや女性ならではのアイデアを積極的に生かしてい

ただきたいと思っています。

今、皆さんの住んでいる地域にある建物は20・30年後には必ず老朽化していき、やがては無くなります。これから皆さんで取り組み「住民自治によるまちづくり」は無くなることはありません。永遠に渡るテーマであり、より多くの市民の参加により、新しいノウハウもどんどん生まれてくることでしょう。

市としては、さまざまな支援を行います。地域サポート職員制度やボランティア職員制度を創設する人的支援。活動拠点の確保。まちづくり協議会の設立準備や運営、活動のための補助金制度を創設する財政支援。シンポジウム、セミナー、職員研修会などを開催する人材育成。ホームページなどを通じて情報共有・情報発信するなど共に頑張ってください。

の地方創生の取り組みがスタートした今、まさに今がチャンスです。

下関市が安全で安心、笑顔あふれる住みやすいまちになるよう、楽しみながらみんなで取り組みましょう。

まちづくり支援課(☎231-1261)

しものせきナビ vol.62

幕末維新紀行

史跡 高杉晋作墓

下関市大字吉田553ほか地内



下関市東端の吉田地区の清水山にある史跡「高杉晋作墓」。高杉晋作(号・東行)は大保10(1839)年、長州藩士高杉小忠太の長男として萩城下に生まれ、萩の藩校明倫館に学ぶ傍ら、松下村塾で吉田松陰に師事しました。

文久2(1862)年には、幕府貿易視察団に加わり上海へ渡航。清国の実情を見聞し、大きな衝撃を受けました。文久3(1863)年6月、下関防御のため奇兵隊を結成。元治元(1864)年12月には長府功山寺で挙兵し、



藩論を統一して、長州藩を倒幕へと導きました。

慶応2(1866)年、奇兵隊などを指揮し、長州再征軍を小倉口で撃退しましたが、慶応3(1867)年4月14日、下関の新天地で結核のため没します。27年と8カ月の短い生涯でした。遺骸は遺言により、奇兵隊陣営のあった吉田のこの地に埋葬されました。

墓所は昭和9(1934)年5月1日に国史跡に指定されました。花こう岩製の墓碑の正面には晋作の号から「東行墓」と陰刻され、側面には俗名、没年月などが見えます。晋作墓の隣には、奇兵隊参謀の福田公明(侯平)の墓が造営され、両墓の周囲に、石柵が巡ります。